

# 山田みやこの活動報告

令和2年11月28日(土)

## 「不登校かかわる現状について」に参加

会場 宇都宮市総合福祉センター

講師 中村 みちよ氏

(一般社団法人フリースペースつなぎ代表理事/宮城県気仙沼市)

〈フリースペースつなぎ活動報告〉

宮城県の中学生不登校者率は全国平均を上回り全国1位(2012年～2018年の調査)

○不登校の要因

〈子どもの回答(NHK調査)〉

- ①教員との関係 ②いじめ ③部活動
- ④決まりや校則 ⑤家庭

〈教員らの回答(文科省調査)〉

- ①家庭 ②決まりや校則 ③部活動
- ④教員との関係 ⑤いじめ

○学校復帰率

平成30年度文科省調査(宮城県)

小学校 28%

中学校 26%

※7割以上の児童・生徒は学校に戻ることができないでいる

○日本の学校教育制度

1960年頃からの高度経済成長に伴い、高学歴化・点数競争過激化・チャイムで区切られた時間割・一斉授業・集団行動・制服着用・学校の規則・管理教育。



時代の多様化に合わなくなってきた。明治以来変わっていない、制度疲労を起こしているのではないか。「想像力」「自己決定力」を育む多様な教育の場が必要。

○不登校の子どもの気持ち

ぎりぎりまで学校に行こうとする。親も頑張って子どもを学校へ行かせようとする。学校に行けなくなった時、休み始めたときはもうギリギリの状態。この状態で学校へ行かせるという事は、虎がいるようなジャングルにもう一度子どもを返すようなもの。

○不登校を解決しなければならない理由

一番は子どもが苦しむ、親も苦しむ→自殺へ繋がる可能性も。

フリースクールなど二重の経済的負担、親も働けない→貧困へ

ひきこもりの増加、学習機会の欠如、少子化の一方で社会的損失

○教育機会確保法の制定(2017年12月)

不登校の子どもたちの「教育の機会を十分に保障する」という法律

第13条 学校以外の場の多様な適切な学習活動の重要性、休養の必要性、必要な情報提供

2019年10月25日 文科省通知

学校に登校する結果のみを目標とするのではなく、社会的に自立することを目指す。休養や自分を見つめ直す積極的な意味。



◦みやネット(多様な学びを共につくる、みやぎネットワーク)  
設立 2019年4月  
団体数 宮城県内9団体(2019年11月現在)  
目的 教育機会確保法の理念を基に、宮城県内の民間団体・教育委員会・行政などのネットワークを構築し、子どもが選択できる多様な居場所が保証される地域社会を作ることを目的とする。

◦みやぎ居場所マップ  
クラウドファンディングを資金で、民間のフリースクールと行政のけやき教室など双方を県内小中学校・公民館など1万枚配布。

◦緊急みやぎ不登校4,000人アンケート  
宮城県が不登校割合4年連続全国最多。当事者の声を聴き、不登校解決の必要性から11月1~7日の間SNSを使い、無記名でアンケートを実施。176名の回答あり。

◦県議会の動き  
不登校調査チームの設立(2019年度夏)  
不登校・ひきこもり対策調査特別委員会設置(2019年12月7日)  
今年2月の県議会一般質問で「学校復帰」から「社会的自立へ」  
不登校調査チームが「つなぎ」訪問(2020年8月12日)

◦2020年11月1日 文科省講演会 体験者発表  
居場所マップと4,000人アンケートを文科省と県教育長に贈呈

◦他市町村の動き  
大崎市 不登校支援の情報交換会(2020年10月)  
仙台市 公明党市議団とみやネットで情報懇談会

◦県議会からの動きによって  
「不登校支援ネットワーク事業」連絡会(年2回)  
コロナのためフリースクールにも学習指導員の配置  
仙台市長とみやネット懇談会(2020年11月30日)

#### 〈「フリースペースつなぎ」について〉

2013年2月立ち上げ(震災から2年後)

東京シューレ奥地 圭子さんの支援

不登校経験児、若者、親の安心できる居場所、主体的な学びと自立的な成長を支援し、希望を育める地域づくりを目的とする。

市内外の小中学生と定期的なケース会(2~3ヶ月に1回)、出席扱いになる。

「つなぎ」スタッフが間に入り、学校と「三者面談」で高校への進路選択が可。

障がい、家庭に課題、就労など地域の学校、相談機関と情報共有。

#### 「つなぎ」の子ども・若者の声

・一緒の行動、一斉勉強が辛かった。毎日嫌な気持ちで学校へ行きたくなかった。「つなぎ」でみんなで作るご飯がおいしい。一对一の勉強が良い、好きなことがどんどんできる。

・小4男子 毎日が楽しい。勉強が分かる。家でだらだらしているより「つなぎ」が好き。

・中2男子 自由な空間好きなことをやれる、みんなで協力しあったり、分からないことを教え合ったりたくさん会話ができる

・19歳男子 学校にいたときは話せなかったが、「つなぎ」は雰囲気が良いので会話ができる。自分のペースが良い

・16歳女子 ずっと家でひきこもっていた。「つなぎ」は人と接する機会が持てる。仕事を手伝って給料をもらえるからありがたい。普通の会社は厳しい。

・18歳男子 家では「取扱注意」腫れ物に触られるような感じだった。「つなぎ」に来てからは家族は明るくなり、態度も普通になって気持ちが楽になった。

○ フリースペースつなぎの今後

〈課題〉

- ・ 財政 → 利用料の軽減へ
- ・ 場所 → コロナ対策、学習環境の保証
- ・ 人的 → 不登校理解
- ・ 連携 → 学校・教育委員会
- ・ 若者の就労の課題

※ フリースペースつなぎの中村代表理事からの活動報告

県議会議員を取り込んで現状の理解と教育委員会との連携を作り、「学校以外の学びの場」の活動拡大と共に、不登校の子ども若者に本当に必要支援を行っている。

居場所マップ4,000人アンケートは素晴らしい